

室蘭工業大学-学報

NO.664



燃焼中の5kN級ハイブリッドロケット（2本クラスタ運用）
（12ページに関連記事あり）

2025年 2月号

目次

◇ トピックス ◇

教育研究・財務レポート2024（Performance & Financial Reports 2024）を公開	1
本学学生が文部科学大臣杯争奪・第51回全日本学生パワーリフティング選手権で入賞	3
浅田拓海准教授が北海道科学技術奨励賞を受賞	5
室蘭工業大学公認サークルSARDがApple社MacBookのTVCM『学生にMac』に出演	6
北海道室蘭清水丘高校の生徒が国際交流センターを訪問	8
社会的インパクト表現ワークショップSTEP1とYomo-Yamaノ宴を開催	9
名古屋大学を代表とする研究チームとの共同研究により世界初の液体燃料・液体酸化剤を用いたデトネーションエンジン宇宙動作実証に成功	11
JAXAとロケットスレッドを活用したパラシュート開傘試験を実施	12
教職員向けBox活用セミナーを開催	13
令和6年度第2回Box Drive利用者向け操作/セキュリティ説明会を開催	14
松田瑞史学長が道民向けセミナー「次世代半導体とほっかいどうの未来 in 室蘭」に登壇	15
鹿毛あずさ助教が公益財団法人大隅基礎科学創成財団 第8期（2024年度）研究助成に採択	17
室蘭工業大学創立75周年記念第30回（令和6年度）室蘭工業大学学長杯争奪ロボットサッカーコンテストを開催	18

◇ 情報・資料 ◇

MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」（3回目）の採択	19
--------------------------------	----

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ	20
受託研究等の受入れ	21
奨学寄附金の受入れ	22

◇ 人 事 ◇

人事異動	23
計報	24

◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催	25
-------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事	26
-----------	----

◇ 人物図鑑 ◇

室蘭工業大学人物図鑑 part.11～15	27
-----------------------	----

トピックス

教育研究・財務レポート2024 (Performance & Financial Reports 2024) を公開

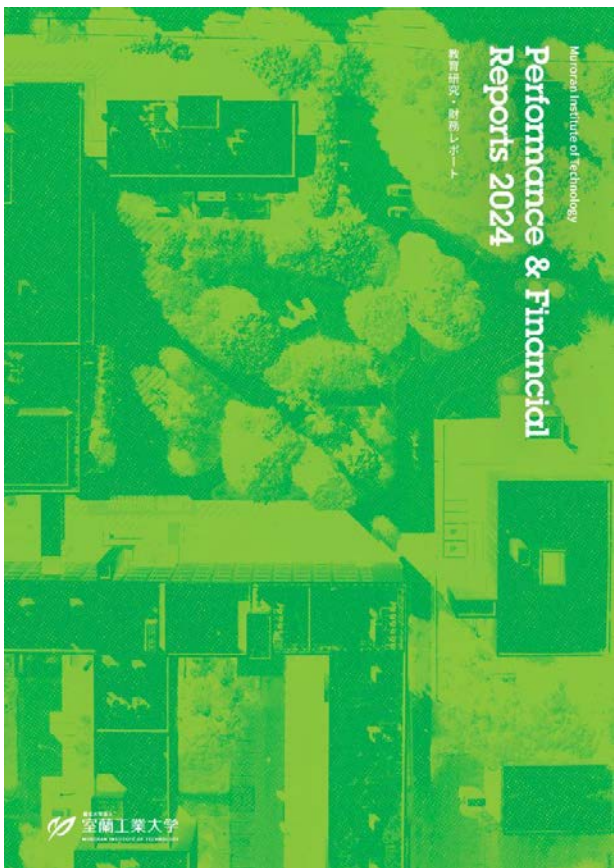
令和6年12月25日(水)に「教育研究・財務レポート2024 (Performance & Financial Reports 2024)」を発行し、ウェブサイトにて公開しました。

教育研究・財務レポートは、国民や社会の皆様に対する情報開示及び説明責任の一つとして、室蘭工業大学の財政状態及び運営状況を適切に反映した財務諸表を公表するものであり、併せて本学の教育・研究活動等を一般の方にてできるだけわかりやすく情報発信することを目的

として作成しています。

教育研究・財務レポート2024を通じて、本学が行う教育・研究・地域貢献等の取り組みを理解していただければ幸いです。引き続き本学に対するご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教育研究・財務レポート2024



「教育研究・財務レポート2024」表紙



Matsuda Vision

Education

豊かな可能性とあたたかな繋がりを、デジタルで。

大学の機能強化と拡張に向け、本学はデジタル・キャンパス実現のための活動を強力に推進しています。2023年にはスチューデントアンバサダー制度を創設し、チーム「M-COINS（エムコインズ）」と共に機材や管理・異動活動を行いました。取り組みがもたらした変化、そしてこれから、活動の現在地と目指す未来を、教員、職員、学生の言葉でお届けします。

「どこにいても学べる、働ける」が実現

教員 本学は2022年にデジタル・キャンパス推進を宣言しました。それからは毎日進んでいますが、皆さんは、どのような変化を実感していますか？

教員 職員の働き方は大きく変わりました。各自のPCがノート型になり、データの保管場所がクラウドになったことで、学内のどこでも仕事をできるようになりました。紙資料の使用も減っています。

小園 学生も、PCやスマホなど端末さえあれば、いつでもどこでも必要な資料や研究データにアクセスでき、勤務することもできます。クラウドは本当に便利です。

教員 学内のどこでもWi-Fiが通じ、チャージスポットも多いので、活用にあたっての不都合は少ないですね。

教員 デジタル・キャンパス推進にあたり、安全性の担保と快適性の高さは絶対条件でした。情報が漏れない仕組みの構築、Wi-Fiの帯域などハードウェア面でも新しい考え方を導入できました。また使いこなすための研修やサポートも使い慣れた人、情報担当者やITにも力を入れていきたいですね。今後も推進と活用促進を思いまします。

手段ではなく、意識を変えていく

教員 大学にとってのデジタル化でもあり、デジタルネイティブ世代でも学生生活の質は高まるという大前提です。教員、M-COINSの活動をどう感じていますか？

教員 毎日の中の「ちょっとした不便」について、直接伝えられる機会があるのはとてもいいことだと思っています。小園 それを自分たちの手で解決できることもうれしいです。責任、M-COINSでは、学内での落とし物対策アプリや、自習室予約アプリを開発していますが、これも学生生活をより豊かにする力になっていくと考えています。

教員 M-COINSでの活動は、自分自身の成長にも繋がっています。私は生成AIのテスト運用の際、苦手だった「書きまわす作業」に気づかされたのですが、結果、苦手意識を解消できました。大学のために取り組んで、自分の方も伸びていきました。

教員 とても良い言葉が聞かれました。自分を含め、若い世代もIT手段として、大学の活動やデジタル活用を促すこともできると思います。デジタルトランスフォーメーション（以下DX）の本質は業務改革で、工費削減ばかりでも進まずです。その先にどんな新しい変化を生み出していかねばなりません。

教員 本学は理系大学として、真摯に探究し新たな技術を創出、それを社会へ還元していくことがミッションです。それによって、我々職員も成長を遂げ、新たな技術やデジタル人材の育成も期待されています。新たな環境に挑戦していきたく思います。

デジタルを「繋がるための力」に

注脚 次に取り組みたいことはなんですか？

Activity Results

- 学生生活支援課
- 総合学生センター管理業務 Box の導入
- 総合学生センターの導入
- デジタル・キャンパス推進委員会の導入
- 総合学生センターの導入

デジタル・キャンパス実現の現在地と目指す未来について（対談）

大学設置

1949

(昭和24年)

民間等との共同研究数

142件

(令和5年度実績)

学部生就職率

97.9%

(令和5年度)

THE世界大学ランキング2024

北海道地域では、**1501+**位

北海道大学、札幌医科大学に次いでランクイン!

QSアジア大学ランキング2024

501-550

位

論文引用度指数

2

位

卒業生総数

42,765

名

Research

数字で読み解く、室蘭工業大学

就職・進学・資格

- 1位 実就職者数^{※2}
- 1位 建設・住宅系著名18社実就職率^{※3}
- 1位 国家公務員一般職合格者数^{※1}
- 2位 都道府県・市町村職員採用数^{※1}
- 2位 一級建築士試験合格^{※1}
- 2位 大学院進学率^{※3}

学生数

3,292

名

教員数

171

名

大学面積

214,340

㎡

大学へのアクセス

札幌からJR+バス 1時間50分

新千歳空港からJR+バス 1時間40分

高等学校からの評価

- 1位 面見がいい大学^{※2}
- 2位 教育力が高い大学 研究力が高い大学 小規模だが評価できる大学^{※2}

数字で読み解く、室蘭工業大学

本学学生が文部科学大臣杯争奪・第51回全日本学生 パワーリフティング選手権で入賞（全日本学生記録更新）

令和6年11月16日(土)、17日(日)の2日間にわたり、岡山大学第2体育館で開催された「文部科学大臣杯争奪・第51回全日本学生パワーリフティング選手権大会」に本学バーベルクラブが出場いたしました。

本大会は男子全8階級、女子全3階級において学生日本一を決める大会で、本学からは2名が入賞する好記録をおさめました。

【受賞内容】

川上航季（理工学部創造工学科3年）

男子74kg級 準優勝

ベンチプレス 男子74kg級 全日本学生記録更新

布施達広（理工学部システム理化学科3年）

男子105kg級 3位入賞

【受賞コメント】

＜川上航季さん＞

優勝には届かなかったものの昨年の4位から順位も重量も上がり準優勝という成績を納めることができ嬉しい

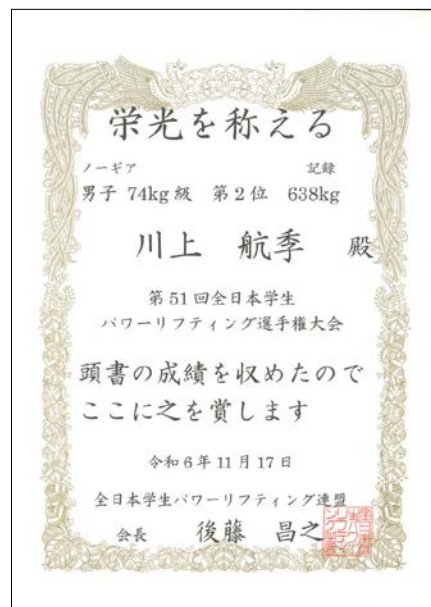
です。ベンチプレスに関しては74kg級の全日本学生記録を更新することができました。全日本学生パワーリフティング選手権の舞台で記録更新を目標に日々トレーニングに取り組んできたので目標を達成することができ、ほっとしています。このような結果を残せたのは一緒にトレーニングしてくれる部員の仲間やOB・OGから受け継がれてきたトレーニングの知恵などがあったからだと思います。これからもトレーニングを続け、世界大会で活躍出来るような選手になりたいと思います。

＜布施達広さん＞

この度、全日本学生パワーリフティング選手権で3位という結果を残すことができ、大変嬉しく思います。昨年の5位から順位を上げ、自身の成長を実感しています。日々の練習を支えてくださった仲間、応援してくれた家族のおかげで、この成果を掴むことができました。まだ課題も多いですが、更なる高みを目指し努力を続けます。これからもご声援をよろしくお願ひいたします。



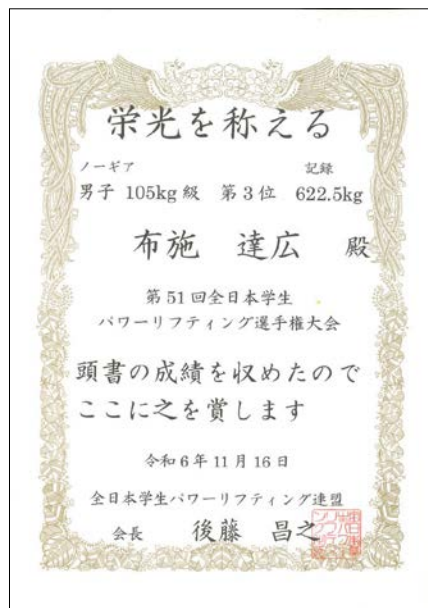
男子74kg級 準優勝 川上航季さん



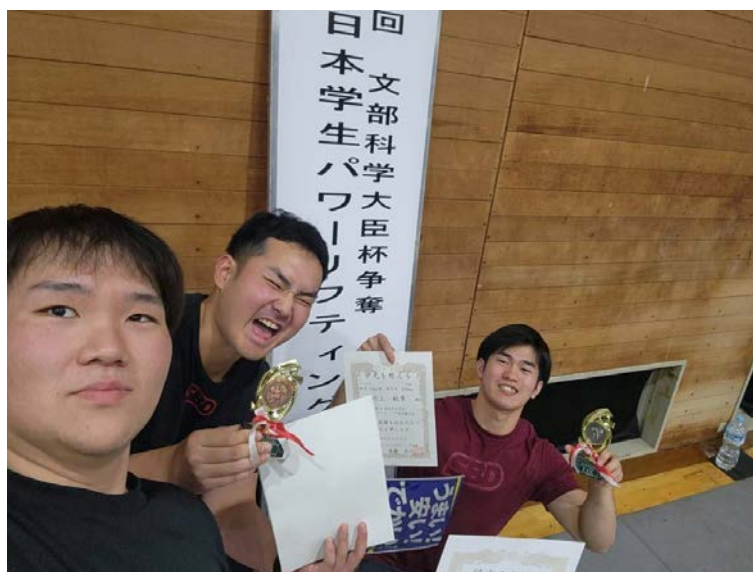
賞状（川上さん）



男子105kg級 3位入賞 布施達広さん



賞状（布施さん）



選手権会場での本学パーベルクラブ

浅田拓海准教授が北海道科学技術奨励賞を受賞

令和6年12月27日(金)に令和6年度北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞が発表され、本学の浅田拓海准教授が北海道科学技術奨励賞を受賞しました。

北海道科学技術奨励賞は、北海道を主な拠点として、本道の発展に寄与することが期待される科学技術上の発明、研究を行い、今後の活躍が期待される45歳未満の若手研究者に、知事表彰として贈られるものです。

【北海道科学技術奨励賞】

浅田拓海（大学院工学研究科 准教授）

「北海道の道路ネットワーク健全化のためのデジタルメンテナンス技術の構築と社会実装」

令和6年度北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞について（北海道HP）

なお、贈呈式は、令和7年2月18日(火)に札幌市内で開催されます。

室蘭工業大学公認サークルSARDが Apple社MacBookのTVCM『学生にMac』に出演

本学の公認サークル学生宇宙研究開発機構SARD (Student Aerospace Research&Development project) がApple社MacBookのTVCM『学生にMac』に出演いたしました。

令和7年1月2日(木)からTVCMが公開され、Apple Japan公式YouTubeでも視聴できます。

また、全国各地の家電量販店などに入っているApple

Shopの店内ポスターにもSARDのメンバーが起用されていますので、是非ご覧ください。

SARDは”本気で宇宙を目指したい”という志をもち、ロケットの打上げやCanSatの製作、人工衛星の研究などを日々おこなっている学生サークルです。

今後のSARDの活躍をお見逃しなく！





北海道室蘭清水丘高校の生徒が 国際交流センターを訪問

北海道室蘭清水丘高校の生徒7名が「総合的な探究の時間」の一環として、本学を訪問しました。生徒たちは、自分たちの興味関心に基づいて深い学びに挑戦するというテーマのもと、多数あるテーマの中から「国際交流、異文化共生」を選び、国際社会で活躍するために必要なスキルや、現在の世界情勢等について坂本准教授や本学留学生に多数の質問をしていました。

生徒たちは、実際に海外から来て日本で生活している留学生には国際的な職業のキャリアパスや来日目的、日

本生活での学び等を聞くとともに、坂本准教授には留学生教育において配慮していることは何か等の話を興味深く聞いておりました。

実施日：令和6年12月20日(金)14時15分～15時45分

場 所：国際交流センター（N202）

参加者：室蘭清水丘高校生徒7名、本学留学生7名、坂本准教授



坂本准教授と話しをする高校生と留学生のみなさん



集合写真

社会的インパクト表現ワークショップSTEP1と Yomo-Yamaノ宴を開催

令和7年1月8日(水)に社会的インパクト表現ワークショップSTEP1及びYomo-Yamaノ宴を室蘭工業大学学生会館多目的ホールとカフェ TENTOで開催しました。

第1部の社会的インパクト表現ワークショップSTEP1は株式会社サイバコさんの協力を得て、室蘭工業大学MONOづくりみらい共創機構パブリックリレーションズオフィス（PRオフィス）の主催で開催しました。

PRオフィスは、「室蘭工業大学の知られざる価値を地域に届ける」ことを目指して活動を進めており、その一環で11月のニュースレター第1号の発行に続き、今回、社会的インパクト表現の基礎を理解すること等を目的と

したワークショップを開催し、教員、職員、学生、地域の方34名が参加しました。ワークショップでは、株式会社サイバコの岩瀬氏のファシリテートにより、PRオフィスの山田祥子准教授からのミニレクチャーから始まり、6グループに分かれてアウトプットからアウトカムを考えるワークを実施しました。ワークショップが進むと笑顔で議論する場面が増え、ワクワクの空気感が充満していました。最後に各チームからワークについての発表が行われました。発表者は、ほとんどが学生で、時に笑いが起こるなど参加者から感嘆の声が挙がるプレゼンでした。



ファシリテートする(株)サイバコ岩瀬氏



ミニレクチャーで説明する山田准教授



グループワークの様子



多様な参加者（学生、教員、職員、地域の方）によるグループワーク

トピックス

第2部のYomo-Yamaノ宴は、室蘭工業大学MONOづくりみらい共創機構地域共創オフィスの主催で領域を超えて多くの人とヒューマンネットワークを形成することを目的に開催し、33名の教員、職員、学生、地域の方が参加しました。参加者は、美味しい料理を片手に、普段あまり交流のない方とも積極的に交流を深めていました。

室蘭工業大学MONOづくりみらい共創機構では、今後もこのようなイベントを開催し、社会的インパクトの表現についての理解を深める活動を進めるほか、研究者等の異分野交流の促進を図り、未来への価値づくりへの貢献を進めてまいります。



第2部Yomo-Yamaノ宴の様子

名古屋大学を代表とする研究チームとの共同研究により 世界初の液体燃料・液体酸化剤を用いた デトネーションエンジン宇宙動作実証に成功

名古屋大学、室蘭工業大学、慶應義塾大学、JAXAによる研究グループで開発したデトネーションエンジンシステムがこのたび令和6年11月14日に鹿児島県内之浦宇宙空間観測所よりJAXA/ISAS観測ロケットS520-34号機で宇宙空間（到達高度 217km）に打ち上げられ、世界初の液体燃料・液体酸化剤を用いたデトネーションエンジンの宇宙動作実証を行いました。

令和3年7月に同グループにより達成された気体燃料・気体酸化剤を用いたデトネーションエンジンの世界初の宇宙動作実証（JAXA/ISAS観測ロケットS520-31号機）に続く快挙となりました。

当該エンジンは室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター白老実験場において令和4年～令和6年にかけて地上実験を繰り返してきました。最終的に令和6年2月にフライトモデルの地上試験を行った後、鹿児島島に輸送され、今回のフライトを行いました。当初は令和6年8月に打ち上げの予定でしたが、宮崎県の地震の影響により射点の設備確認を要したため、11月に延期となっておりました。

デトネーションエンジンは、従来のロケットエンジンに比べてコンパクトな燃焼器でも高い燃焼効率を達成できる特長を有しています。一方でデトネーションが成立するためのストライクゾーンは一般に最適な混合比（燃

料と酸化剤）付近の狭い領域に限られており、無重力環境・スピン安定状態にあるタンクから液体推進剤を供給してデトネーション動作を達成することは令和3年の気体燃料・気体酸化剤のフライト実証に比べ難度の高い挑戦的なミッションでした。

今回液体推進剤を用いるにあたり、テレメトリーにより得られたデータは、白老実験場での度重なる実験により決定した着火タイミングや推進剤混合比の設定により液体推進剤でのデトネーション作動に成功したことを示しており、当該エンジンの実用化に向けた大きな橋頭堡となった次第です。

今後、令和9年度にフライトが予定されている長秒燃焼デトネーションエンジンシステムの構築に向け、さらに本研究グループでの実証研究を加速してゆく所存です。

本研究は国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構戦略経費「デトネーションキックモータ観測ロケット軌道投入実証」および科学研究費補助金特別推進研究「自立圧縮型デトネーション推進器の物理解明:高次結合化観測ロケット宇宙飛行実証展開」の経費により実施されたものです。

▼JAXAによるS-520-34号機プレスリリースはこちらから
JAXAホームページ

<https://youtu.be/31MplYvJjsQ>



宇宙空間で動作したデトネーションエンジン
(令和6年11月14日実施) (名古屋大学/JAXA 提供)



上記フライト品の最終地上燃焼試験
(白老実験場 令和6年2月28日実施)

JAXAとロケットスレッドを活用した パラシュート開傘試験を実施

室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターでは、JAXA研究開発部門と令和6年12月2日から12月6日に本学白老エンジン実験場において、ロケットスレッドによるパラシュート開傘試験を実施しました。

この試験はNASA/JAXAがミッション検討を進めている彗星サンプルリターンミッションCAESERのサンプルリターンカプセル後流におけるシュート開傘挙動を実証することを主眼としたもので、実ミッションと同スケールの供試体を用い、計4度の走行試験（Run69, 70, 71, 72）を実施しました。

いずれにおいてもパラシュートの正常な開傘が確認され、開傘機構の高い信頼性を証明すると共に、その挙動をロケットスレッド上に設置された高速度カメラほか、地上・上空ドローンなどにより多角的に撮影することができました。

ロケットスレッド推進台車には室蘭工業大学で新たに開発した5kN級ハイブリッドロケット2本を搭載し、全重量700kgの台車を約2Gで加速する運用を高い再現性で実施しました。



ロケットスレッド試験台車全景
(水色の物体は大気への再突入カプセル)



保安集合写真（令和6年12月3日 Run69終了後）



燃焼中の5kN級ハイブリッドロケット（2本クラスタ運用）



カプセル後方でのシュート開傘の様子
(機上カメラにて撮影)

教職員向けBox活用セミナーを開催

令和5年11月29日(金)に本学本部棟3階の大会議室で、「教職員向けBox活用セミナー」を対面形式で開催しました。本セミナーは、令和4年11月に全学導入したクラウド型コンテンツ管理基盤Boxの操作方法を学ぶことを目的としています。

本取組みは、本学デジタル・キャンパス推進室に設置したBoxタスクフォースが主催し、教職員を対象としてBoxの効果的な活用方法を学び、業務効率化を図ることを目的としています。本セミナーでは、同タスクフォースのメンバーである相馬達也氏及び株式会社マクニカの池田瞳氏が講師を務めました。冒頭には、本学デジタル・キャンパス推進室佐藤室長から挨拶があり、その後

「本学Boxのフォルダ構成とセキュリティについて」と題し相馬氏による利用方法及び注意事項の説明、「セキュリティ&働き方が変わる！Box活用勉強会_基本操作編」と題し池田氏によるBoxの概要及び活用方法の説明が行われました。当日は22名の教職員が現地に参加しました。

本セミナーの最後に実施された質疑応答では、参加教職員から質問が寄せられ、非常に充実した時間となりました。

今後も引き続き、デジタルサービスの活用のみならず、業務改善を促進するための取組を続けていきます。



デジタル・キャンパス推進室 佐藤室長からの挨拶



デジタル・キャンパス推進室員 相馬氏からの説明



株式会社マクニカ 池田氏からの説明



熱心に説明を聞く参加者

令和6年度第2回Box Drive利用者向け 操作/セキュリティ説明会を開催

令和6年12月9日(月)に本部棟3階大会議室で、Box Drive利用者向けの説明会を開催しました。この説明会は、Box Driveの操作方法とそのリスクを理解することで、安全に利用することを目的として開催しています。

Box Driveは、本学で全学導入しているクラウド型コンテンツ管理基盤Boxをエクスプローラー感覚で利用できるツールです。これにより、本学で使用している業務自動化ツールの利用がBox上で可能になりますが、誤操作による情報漏洩等のリスクも存在します。説明会の講

師は、本学デジタル・キャンパス推進室のBoxタスクフォースメンバーである相馬達也氏が務め、Box Driveの概要、デメリット及び利用上の注意点について説明しました。当日は18名の職員が参加し、説明会終了後には確認テストが行われ、このテストに合格した参加者にBox Driveの利用権限が付与されました。

この説明会は今後も継続して開催される予定であり、Box Driveの安全な利用を促進するとともに、業務改善につなげていきます。



デジタル・キャンパス推進室員 相馬氏からの説明



説明会の様子

松田瑞史学長が道民向けセミナー 「次世代半導体とほっかいどうの未来 in 室蘭」に登壇

令和7年1月20日(月)に本学本部棟大会議室において、道民向けセミナー「次世代半導体とほっかいどうの未来 in 室蘭」(主催：北海道経済部産業振興局 次世代半導体戦略室)が開催され、一般の方や本学関係者含む約150名(オンライン含む)が参加しました。

本セミナーはRapidus株式会社による次世代半導体のプロジェクトをはじめ、半導体が私たちの暮らしや未来をどのように変えていくのかについて、道民の皆様の理解を深めていただくための機会を提供する市民向けのセミナーです。

冒頭に北海道経済部長の水口伸生氏より「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョンと道の取組」と題した挨拶があり、続いて経済産業省商務情報政策局課長補佐の二之湯裕之氏より「日本の半導体政策について」と題した紹介がありました。

最初に、Rapidus株式会社代表取締役専務執行役員オペレーション本部長の清水敦男氏より「次世代半導体プロジェクトについて」と題した講演が行われました。

続いて、本学の松田瑞史学長(専門分野：電子工学、

超伝導エレクトロニクス)より「半導体と私たちの暮らし」と題して、身の回りにある半導体について、材料、素子、集積回路についての基礎的な解説を行いました。

- ・「量子ドットを用いて神経変性疾患の予防・治療薬を探る」(徳樂清孝教授)
- ・「水防災分野のDXに向けての研究の取り組み～ダム運用へのAIの活用～」(中津川誠教授)
- ・「AIを使った物体検出」(花島直彦副学長)

といったAIや高度情報処理システムを活用した本学での研究紹介や本学の半導体関連の教育への取組を紹介し「半導体による高度情報化社会の進展」に向けて、専門分野だけでなく、数理・データサイエンス・AIといった情報系の素養を持つ「足腰の強い高度理工系人材」の育成に力を入れていくと語りました。

最後に東京エレクトロン株式会社New Space C&F コア技術開発担当GM 兼 Innovation X Lab.部長の早川崇氏より「半導体の今と北海道への期待」と題した講演が行われました。



北海道水口氏による挨拶



経済産業省二之湯氏による紹介



Rapidus清水氏の講演



本学松田学長の講演



東京エレクトロン早川氏の講演



ほぼ満員となった会場の様子

鹿毛あずさ助教が公益財団法人大隅基礎科学創成財団 第8期（2024年度）研究助成に採択

公益財団法人大隅基礎科学創成財団 第8期（2024年度）研究助成 基礎科学（一般）に鹿毛あずさ助教（研究代表者）の『「緑の酵母」クラミドモナスが重力を生理的に感知するメカニズム』が採択されました。基礎科学（一般）170件の応募中、採択されたのは鹿毛助教の研究を含む6件でした。

令和6年12月23日（月）に東京科学大学すずかけ台キャンパス（横浜市）にて同財団による贈呈式が行われ、鹿毛助教が出席しました。同財団は2016年ノーベル生理学・医学賞受賞者の大隅良典 東京科学大学名誉教授を理事長とし、生物学及び周辺分野における基礎研究の助

成、研究者と社会との新たな連携を構築する事業を主な事業内容とします。

採択にあたってのコメント

このたび、研究室を立ち上げたばかりのタイミングで研究助成に採択いただき、大変光栄で、心から感謝しています。この助成を活かしてますます研究に励み、単細胞の重力生物学の研究を室蘭から世界に発信していければと思っています。

大隅基礎科学創成財団ホームページ



大隅理事長（左）と鹿毛助教（右）



贈呈書

室蘭工業大学創立75周年記念第30回（令和6年度） 室蘭工業大学学長杯争奪ロボットサッカーコンテストを開催

室蘭工業大学創立75周年記念第30回（令和6年度）室蘭工業大学学長杯争奪ロボットサッカーコンテストを令和7年1月12日（日）、大会館多目的ホールを会場に開催しました。

このコンテストは、ものづくりや科学技術への関心を高め、創造性の育成を図るとともに、地方の活性化に資することを目的とし、平成6年度から実施しています。

本大会は、室蘭市をはじめ、札幌市、小樽市、函館市のほか、道外の大府からの参加もあり、20チーム約80名が競技を行いました。

競技は、攻撃側ロボットと守備側ロボットの2体を有線または無線を用いて操作し、制限時間内に得点を競う対戦をトーナメント形式で行いました。観客席からの熱い応援を背に、参加者は、様々な特徴のロボットを巧み

に操作し、時には機体同士をぶつけながら、ゴールを目指して白熱した試合を展開していました。

《試合結果（所属・チーム名）》

優勝 北海道小樽未来創造高等学校・ステイ中川

準優勝 DENZAI環境科学館ロボクラブ・MD08

第3位 室蘭工業大学ロボットサークル夢工房・ムロロー同窓会長賞

公立はこだて未来大学ハードウェアサークル・funbot
室工大生協理事長賞

北海道札幌工業高等学校・MEC MAN

奨励賞 北海道札幌工業高等学校・ミスター

北海道札幌工業高等学校・メカモン

室蘭工業大学ロボットサークル夢工房・SUPERAR



ロボットサッカーコンテストの白熱した試合



閉会式

情報・資料

MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」(3回目)の採択

令和6年度MONOづくりみらい共創機構プレ共同研究(3回目)公募の結果、次のとおり採択されました。

本事業は、本学教員と民間機関等との研究者が、次年度以降において民間機関等との共同研究へ発展させるための前段階に相当する共同研究に対して助成を行うものです。

研究代表者・職・氏名	民間企業等	採択金額 (千円)
もの創造系領域 教授 高瀬 裕也	飛鳥建設(株)	500
合 計 (1件)		500

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額 (千円)
もの創造系領域 教授 北 沢 祥 一	大 企 業	1,000
合 計 (1 件)		1,000

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額 (千円)
もの創造系領域 特任教授 河合 秀 樹	大 企 業	702
しくみ解明系領域 教 授 山 中 真 也	地方公共団体	600
合 計 (2件)		1,302

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額 (千円)
公益財団法人発酵研究所	工学研究助成	3,000
東光電気工事株式会社	工学教育助成	400
一般財団法人北海道電気保安協会	工学教育助成	250
株式会社北建	工学研究助成	1,000
株式会社北建	工学研究助成	1,000
合 計 (5件)		5,650

人事

人事異動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異動内容	氏名	現職
令和7年1月31日	〈辞職〉	赤 萩 恵 梨 加 藤 優 里	MONOづくりみらい共創機構 特定専門職員 クリエイティブコラボレーション センター 技術補佐員
令和7年1月31日	〈雇用期間満了〉	KOMMULA DILEEP	大学院工学研究科 博士研究員
令和7年2月1日	〈雇用期間更新〉	尾 張 留美子	ものづくり基盤センター 事務補佐員

訃 報

名誉教授

片 山 博（享年92歳）

本学名誉教授、片山 博氏は、去る令和6年12月24日(火)逝去されました。

ここに、生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、室蘭工業大学工業化学科を卒業後、昭和38年4月室蘭工業大学助手、昭和46年11月同助教授、昭和61年4月同教授、平成11年4月に室蘭工業大学名誉教授となられ、現在に至っておりました。

学内会議

学内各種委員会等の開催

<12月25日～1月24日>

開催日時 令和7年1月8日(水)
会議名 第8回教育研究評議会

開催日時 令和7年1月8日(水)
会議名 第25回役員会

開催日時 令和7年1月9日(木)
会議名 第7回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

開催日時 令和7年1月14日(火)
会議名 第16回企画戦略会議

開催日時 令和7年1月21日(火)
会議名 第26回役員会

学内行事

- 12月27日(金) 一斉休業(1/6まで)
- 1月10日(金) 合格発表【2025年度4月入学 大学院博士後期課程 外国人留学生入試(国外出願第2次募集)】
- 1月12日(日) 第30回室蘭工業大学学長杯争奪ロボットサッカーコンテスト
- 1月18日(土) 令和7年度大学入学共通テスト(19日まで)
- 1月20日(月) 道民向けセミナー「次世代半導体とほっかいどうの未来」in室蘭
- 1月21日(火) キャリア形成のためのランチタイムセミナー第21回

学外行事

- 1月16日(木) 国立大学協会 第23回大学改革シンポジウム「博士人材の活躍の促進」(オンライン)
- 1月22日(水) 国立大学協会 令和6年度第3回総会(東京)

Part 11

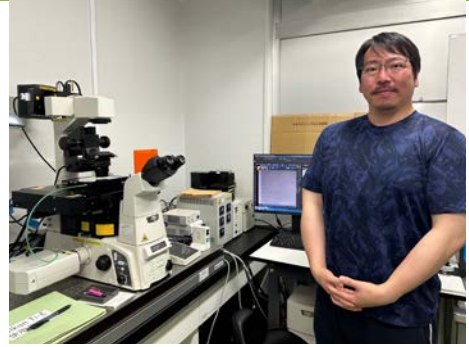
事務職員
伊藤 祐太



- ①大学の予算に関するお仕事 (企画や管理等)
- ②迷ったらみんなで考えてくれる、助けてくれる。そういった助け合いの意識が年々強くなってきているのかなと思います。
- ③大学の顔の正門 or tentoも良いですね。

Part 12

助教
倉賀野 正弘



- ①細胞生物学、細胞運動、細胞骨格 (顕微鏡観察が至福のひと時)
- ②学生の皆さんがとても素直なこと、異分野の先生が身近にいること
- ③TENTO 研究の合間に美味しいコーヒーが楽しめます!

Part 13

教授
小笠原 克彦
(北海道大学とのクロスアポイントメント)



- ①医療情報学、医療システム学
- ②「山椒は小粒でもぴりりと辛い」
室工大は学生を成長させる実践志向の大学です。
- ③窓を開けると室蘭岳が一望できる教授室

室蘭工業大学 人物図鑑

室蘭工業大学に所属する教員・職員に
専門分野、業務内容、室工大の
Good Pointなどを聞いてみました。

- ①専門・業務内容
- ②室工大のGood Point
- ③室工大で好きなspot



Part 14

助教
鈴木 元樹



- ①情報通信技術やAI技術など
- ②実践的な科目が多いこと、図書館が綺麗なところです。
- ③大学内のスーパーマーケット、安くて美味しいお弁当がたくさんあります。

Part 15

教授
北沢 祥一

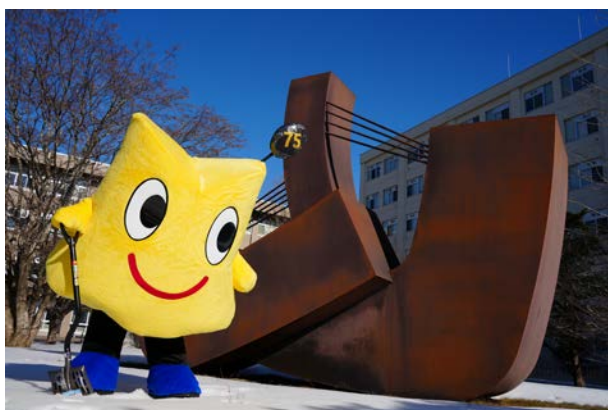


- ①無人航空機用の無線通信、IEEE802での標準規格策定
- ②コンパクトなキャンパス。山に近いので自然もゆたか。研究では北海道だけではなく、Globalな研究も実施。
- ③実験で使う学内の建物屋上からの風景。北側に山、南側に室蘭市街とその先に海が広がる風景が素敵。

編集後記

◆ 冬の晴れの日ほど空がきれいな日はないということで、ムロびよんの撮影会を実施しました。青い空、白い雪に黄色いムロびよんが映えます。

あんなに大きなムロびよんですが、こんなに軽やかに飛んでおります！雪かきもできます！



(Garoon : 総務広報課秘書広報係、E-mail : koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびよん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308